

「日本の伝統音楽・楽器に親しもう」

～ 挑戦問題「尺八に挑戦しよう」～

本題材で育成する資質・能力

情報収集力、思考力・表現力、責任感・使命感

【習得】

【鑑賞】楽器の構造や奏法を知り、その楽器固有の音色や響きを知覚・感受することができる。

【器楽】楽器の特徴に関心を持ち、基礎的な奏法（楽器の初歩的な演奏）を身に付けている。

【活用】

【鑑賞】楽器の音色や奏法の特徴を言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。

【器楽】尺八の独特な奏法を習得したり、簡単な旋律を吹いたりすることができる。

【挑戦・探究】

【鑑賞】西洋やアジアの音楽等、多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞できる。

【器楽】自分の演奏を他者に披露し、楽器演奏の楽しさや達成感を味わう。

1 題材名 日本の伝統音楽・楽器に親しもう 一尺八曲「巢鶴鈴慕」の鑑賞と尺八演奏に挑戦—

(1) 生徒観

本学級の生徒は1学期鑑賞の授業で、「春」と「魔王」を学習している。事前調査では、生徒の普段聴いている音楽は、JPOPや洋楽といったジャンルが多く、クラシック音楽を普段から聴いている生徒はおらず、興味がないという意見があったが、授業後には、振り返りシートなどで楽曲についてのよさを書くなど、クラシック音楽に親しみをもつ生徒がでてきた。今回の題材である「日本の伝統音楽」について、事前アンケートを行ったところ、「日本の伝統音楽に興味がありますか」という質問について、84%の生徒が「ない」と答えた。また、これまでに見たり聴いたりしたことがある生徒は、39%と少なかった。しかし、興味がないという生徒が多い中、「日本の伝統音楽を知りたいですか」という質問に対しては、「知りたい」という生徒が70%という結果であった。その理由として、「日本人として自分の国のことは知っておきたい」、「日本のことなのに知らないから」という意見が多かった。興味は低いものの、日本人として知っておくべきという意識は高い。

一方、和楽器の表現活動においては、郷土の伝統芸能で、横笛の演奏経験をもつ生徒は100%であったが、尺八の経験がある生徒は一人もいなかった。このような実態から、グローバル化する社会の中で、異なる文化や歴史に敬意を払い、自らの国の伝統や文化について理解を深め、尊重する態度を身につけること、またそのよさを継承・発展させるための教育を充実する必要があると考える。

(2) 題材観

本題材の鑑賞においては、中学校学習指導要領の第1学年の内容(2)B鑑賞の指導事項ウ「我が国の伝統音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること」とその基となる能力、[共通事項]のアの「音色、速度、旋律、強弱等、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受けること」を受けて設定した。また、和楽器の表現活動においては、第4章の「内容の取扱いと指導上の配慮事項」において、「和楽器の指導については、3学年間を通じて1種類以上の楽器の表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫すること。」を受けて設定した。さらに、「和楽器を表現活動における器楽の指導に用いることはもちろんであるが、歌唱や創作、鑑賞との関連も図りながら、実際に和楽器に触れ、体験することで、我が国や郷土の伝統音楽の学習効果を更に高めることが期待できる。生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさなどを味わい、我が国の音楽文化を尊重する態度を養うことが、和楽器を用いる本来の意義であり、そのために一層の指導の工夫が求められる。」とある。このことを受け、我が国の伝統音楽の鑑賞に関連付け、和楽器の表現活動を取り入れた本題材を設定した。

本題材で扱う尺八曲「巢鶴鈴慕」は、18世紀半ばごろに広く親しまれており、雛の誕生から、子を育てる親鳥の献身的な姿、そして、雛鳥の巣立ちの後に親鳥は力尽きて死んでしまうという、親子の情愛と別れの様子を描写しているとも伝えられている。曲は、全十二段から構成されており、短い初段だけからでも、様々な奏法による音色の変化を聴くことができる。日本という国に生まれながら、「日本の伝統音楽」に触れる機会が

少ない生徒たちに、本題材を通して、尺八の音色に親しみ、様々な奏法による音色の変化を感じ取り、尺八の魅力を味わわせたい。

一方、尺八の表現活動においては、「塩ビ尺八」を使用し、実際に尺八の音出しの難しさを体験させ、練習を重ね音が出た時の喜びと、「夕焼け小焼け」等の簡単な旋律が吹けるようになった時の達成感を味わわせたい。

(3) 指導観

導入では、塩ビ尺八の音出しに挑戦することで、鑑賞における興味づけを図りたい。次に、尺八の生まれた時代背景を知るとともに、楽曲を聴き知覚・感受したことを、より深い学びにするために、個人思考から集団思考の場を設定し、さらに、表現する学習活動を通して、独特な旋律や音色の美しさ、様々な奏法の特徴を味わわせたい。初段全体は3つの部分に分けて考えることができ、その最初の部分では「スリ」、第2の部分では「コロコロ」、第3の部分では「タマ音」といった奏法が取り入られている。尺八の独特な奏法や音色の変化に気付かせるために、ワークシートに、生徒自身が線や記号などを使い、自由に表現できるよう工夫したものを使用する。また、ICTを活用し、実際の演奏の映像を使用して奏法の理解を深めるとともに、尺八の歴史や構造、楽曲の説明などを効果的、効率的に行い、生徒自身が考える時間を確保したい。一方、尺八の表現活動においては、自らが試行錯誤して音出しのコツを発見させ、音が出る喜びを味わわせたり、地域の尺八奏者を招聘し、より豊かな響きや音階の習得をさせたりするなど、鑑賞と器楽を関連付けた本題材を通して、我が国の伝統音楽のよさを味わい、我が国の音楽文化を尊重する態度を養いたい。

2 題材の目標

- ・日本の伝統的な楽器である尺八に関心を持ち、さまざまな奏法による音色の変化に着目しながら楽曲を味わって聴く。
- ・尺八の音出しの難しさを体験させ、音が出た時の喜びを味わわせるとともに、簡単な旋律が吹けるようになる。
- ・日本の伝統音楽のよさを味わい、日本の音楽文化を尊重する態度を養う。

3 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
○尺八の音色や奏法による表現の特徴に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 ○楽器の特徴（楽器の構造や奏法、その楽器固有の音色や響き、よさなど）に関心を持ち、基礎的な奏法（楽器の初歩的な演奏方法など）で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	○音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、楽器の特徴をとらえた音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	○楽器の特徴をとらえた音楽表現をするために必要な、基礎的な奏法などの技能を身に付けて演奏している。	○音楽の特徴を感じ取り、言葉で説明するなどして、楽曲や尺八のよさや美しさを味わって聴いている。

4 本学園で育成しようとする資質・能力及び態度

資質・能力及び態度	評価規準
①情報収集力	問題解決に向けて課題を設定し、課題解決に向けて必要な情報を収集することができる。
②思考力・表現力	情報を整理・分析し、導き出した自分の考えを工夫して表現することができる。
③挑戦心・探究心	どんな問題にも前向きに粘り強く挑戦・探究しようとする意欲をもっている。
④協働的な態度	自他を尊重し、コミュニケーションを図りながら協力して課題解決を図ろうとしている。
⑤感謝・貢献	自分がまわりに生かされていることを自覚し、家族・地域・社会に感謝・貢献しようと考えている。
⑥責任感・使命感	社会の一員として優れた伝統文化と精神を継承し、よりよい未来の担い手としての自覚と高い志を持っている。

○本題材では、鑑賞の基になる尺八の歴史、構造、種類及び尺八の特徴や奏法を理解することを通して「情報収集力」を、尺八の独特な奏法や音色を知覚・感受し、集団思考することや、尺八の指導から学んだことを自分なりに

工夫して表現することを通して「思考・表現力」を、鑑賞や器楽の振り返りを通して「使命感」の育成を図る。取組に当たって、次のルーブリックで行うことを事前に示すとともに、事後に自己評価及び教師の他者評価を行うことで、資質・能力及び態度の向上を確認する。

【本題材で生徒と共有するルーブリック】

資質・能力及び態度	評価基準
①情報収集力	A ワークシートに課題解決に向けて必要な情報について整理し、より詳しく情報を収集でき、記述できる。 B ワークシートに課題解決に向けて必要な情報を記述できる。 C ワークシートに課題解決に向けて必要な情報の一部の記述をすることができる。
②思考力・表現力	A 楽器の奏法や音色を感受したり、情報収集で得たりしたことを整理・分析し、自分なりに工夫して表現できる。 B 楽器の奏法や音色を感受したり、情報収集で得たりしたことを自分なりに工夫して表現できる。 C 楽器の奏法や音色を感受したり、情報収集で得たりしたことを表現している。
⑥責任感・使命感	A 振り返りシートに日本文化の良さについて十分な記述をすることができる。 B 振り返りシートに日本文化の良さについての記述ができる。 C 振り返りシートに日本文化についての記述ができる。

※ Aのうち、特に優れている場合はSとする。Cに満たないものはDとする。

5 指導と評価の計画 (全5時間)

時	主な学習活動	評価				評価規準 (評価方法)	資質・能力の 評価 (評価方法)
		関	表	技	鑑		
1 (本時)	<p>挑戦問題の設定 「尺八に挑戦しよう」</p> <p>情報の収集・分析 ・尺八の歴史、構造、種類について知る。 ・尺八の特徴や奏法、音色などについて、知覚・感受する。</p>	◎	◎			<ul style="list-style-type: none"> 尺八の特徴や奏法、音色に関心を持って主体的に聴いている。(観察・ワークシート) 尺八の独特な奏法による表現の特徴を知覚し、その美しさや豊かさを感じ取っている。(ワークシート) 	<p>★ルーブリックを提示する。</p> <p>①情報収集力(ワークシート)</p>
2	<p>整理・分析 ・尺八の奏法について知る。 ・独特な旋律の特徴を聴き取る。 ・楽曲に使われる演奏の工夫を見つける。</p> <p>まとめ・創造・表現 ・「巢鶴鈴慕」の演奏場面を視聴し、前時の感受をもとに紹介文を書く。</p> <p>実行 ・紹介文を発表し合い、他の生徒の考えから学び、自分の考えを再度見直す。</p> <p>振り返り</p>	○			◎	<ul style="list-style-type: none"> 尺八の音色と奏法の関係に関心をもち、主体的に視聴している。 尺八の美しい音色や奏法による表現の特徴を感じ取り、楽曲全体を聴き取っている。(観察・紹介文) 	⑥使命感 (振り返りシート)

3	<p>情報の収集・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 尺八の音出し練習をする。 今まで学習した奏法を一つ選び練習する。 「夕やけこやけ」のデモ演奏を鑑賞し、練習する。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の特徴に関心を持ち、基礎的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。(観察) 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、楽器の特徴をとらえた音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(観察) 		
4	<p>創造・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師による指導を受ける。 「夕やけこやけ」を練習する。 自分で選んだ奏法を練習する。 			◎	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の特徴をとらえた音楽表現をするために必要な、基礎的な奏法などの技能を身に付けて演奏している。(観察) 	
5	<p>まとめ・創造・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 「夕やけこやけ」を発表する。 自分で選んだ奏法を発表する。 <p>実行</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の生徒の発表を聴き、その良さや課題を見出し、自分の演奏を再度見直す。 <p>振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 尺八の鑑賞と表現活動を通して、学んだことを書き、意見交流をする。 			◎	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の特徴をとらえた音楽表現をするために必要な、基礎的な奏法などの技能を身に付けて演奏している。(ワークシート・実技評価・観察) 	<p>②思考・表現力(ワークシート)</p> <p>⑥使命感(振り返りシート)</p> <p>★①②⑥ループリックでの自己評価をする。(ワークシート)</p>

6 本時の目標

- 尺八の歴史、構造、種類について知る。
- 尺八の音色や奏法の特徴を知覚・感受する。

7 本時の評価規準

- 尺八の特徴や奏法、音色に関心を持って意欲的に聴いている。
- 尺八の独特な奏法による表現の特徴を知覚し、その美しさや豊かさを感じ取っている。

8 学習の流れ（1時間目/全5時間）

学習活動	指導上の留意点（・） ◆「努力」を要する状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 教科の指導事項 ○（評価方法） 資質・能力（★）
1 課題意識をもつ。 「尺八との出会い」	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒全員に塩ビ尺八を配付する。 ・これが何なのかを自由に発表させ、題材への意欲の高揚を図る。 	
挑戦問題：「尺八に挑戦しよう」の提示		
<p>「塩ビ尺八」を吹く。（グループ活動）（7分）</p> <p>2 本時のめあてを確認し、シートへ記入する。（2分）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どうすれば音が出るのか、グループで活動させる。（簡単には音が出ないことを理解させる。また、音が出た生徒を評価し、そのコツを他生徒に教授させる。） ◆グループ活動で、どうやって吹くのかを発見させる。 	
めあて：「尺八の音色や奏法の特徴を感じ取ろう。」		
3 尺八の歴史、構造、種類について知る。（10分）	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の歴史や特徴について映像や資料を用いて説明する。 ◆ICTを活用し、視覚支援をする。 ・大事な点はワークシートにメモするよう生徒に指示をする。 	<p>○尺八の特徴や奏法、音色に関心を持って主体的に聴いている。（観察・ワークシート）</p> <p>★①</p>
4 奏法の工夫について予想する。 「巢鶴鈴慕」初段を聴きワークシートへ記入する。 個人→集団→発表 （演奏6分）（活動15分）	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような独特な音の響き（音の変化）があったかを線や記号で書き出し、見つけ出す。 ・どのようにしてその音を出しているか予想を立てる。 ◆塩ビ尺八やリコーダーを用いて、奏法を発見できるよう指示をする。 ・一度の演奏では聴き取りが難しいので、適宜演奏を流す。 	<p>○尺八の独特な奏法による表現の特徴を知覚し、その美しさや豊かさを感じ取っている。（ワークシート）</p>
5 本時のまとめ（5分）	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習から、学んだことや気付いたことを自分なりにまとめ、発表させる。 	
生徒のまとめ例：単純な作りに見える尺八であるが、奏法の工夫により、様々な音色が作り出されていることが発見できた。		
6 本時を振り返り、次時につなげる。（5分） ・復習課題を提示する。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時では、予想した奏法が、実際にどのように演奏されているのか知り、「巢鶴鈴慕」ではどんな奏法が使われているのか発見させる。 ・本時で学習した内容（尺八の歴史や構造について）を自分なりにまとめる。 	振り返りシート